

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 4 月 14 日
事業所名	社会福祉法人 嘉祥福祉会 グループホームあま恵寿荘
事業所番号	2375601016
記入者名	職名 介護主任 氏名 吉川 幸宏
連絡先電話番号	052 - 445 - 0211

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	参加できるような催し物があれば、地域の行事に参加している。グループホームあま恵寿荘の職員の目標に「その人らしさに共感し、地域の中で普通の生活を送って頂けるよう支援する」と掲げている。	地域に根ざした生活が送れるよう努力していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所の出入りに掲示しており、職員がいつでもそれを見ることができる。またGHあま恵寿荘では上記のような職員目標があり、職員全員がその意識を共有している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族様との話の中で説明し、理解して頂いている。運営推進委員会を通じて地域の方々にグループホームあま恵寿荘のことを知っていただくよう努めている。	利用者様・ご家族様・地域の方々の意見やニーズを日々のケアに活かしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出の際には出会った方と積極的に話しているが、施設の立地場所周辺に民家が無く、交流が困難な状態にある。また、施設行事(夏祭り・家族会)等には地域住民も招待している。	出来る限り近隣住民との交流を図り、気軽に施設に立ち寄っていただけるよう努めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のゴミ拾い運動等の地域の行事や取り組みに少しずつではあるが参加している。	参加できることがあれば、もっと参加していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>		出来る事があれば取組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		改善点は沢山あるが、”利用者様のために”とい う気持ちを大切に目の前にあることから一つ一つ 取組んでいきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>		今後の運営推進会議をより実りあるものにしてい けるよう各関係者と共に取組んでいきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>利用者様・ご家族様に不安感を与えないような施設であり続けたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者（Gh管理者兼任）は職員の適正を考慮し人事異動や職員配置を行っている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での内部研修を4回以上/年間行い、職員のスキルアップに努めている。		今後は法人全体で少人数のグループをつくり、「事例検討会」を行っていく予定。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のバックアップを受け、近隣の四市町村との情報の交換・交流を行っている。		今後は更なる交流を図りサービスの質の向上につなげたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1回/年の職員旅行や施設主催の忘年会・新年会で職員の交流・ストレスの軽減に努めている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの意見を尊重し、職員全体でその取り組みができるよう話し合いの機会を常にもっている。		職員一人ひとりの貴重な意見を出来る限り日頃のケアに活かせるようにし、利用者様にとって住みやすく居心地の良いホームになるよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者様の表情・言動には常に気に掛けており、何かあれば各担当がその利用者様の居室へ訪問し周りの目を気にせずゆっくりと話を傾聴している。また、その不安が軽減されるよう努めている。</p>	<p>利用者様にとって職員が必要不可欠な存在になれるよう努力したい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時には必ず介護主任や介護職員が声を掛け、会話ができる時間を作っている。</p>	<p>ご家族様からの更なる信頼を得られるよう努めていきたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>「利用者さまにとって何が一番良いことなのか」を考え迅速に対応できるようにしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>新規入所の方には必ず事前に一度ホームの雰囲気味わっていただくから、入所の判断をいただいている。また、新たな取り組みを行う際には担当内で十分に検討してから実施するように努めている。ご家族様にも説明をし了承を得ている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は第二の家族を目指し接しており、常に利用者様に寄り添うケアを念頭においている。また、裁縫や農作業においては、それを得意とする利用者様に教えていただきながら共に行うようにしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員が行うケアについて説明・相談し、行った後も報告して情報を共有するよう努めている。また、ご家族との信頼関係も築けていると思う。		更なる信頼関係・より良い相互関係を築いていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	新規入所時には出来る限りの情報を求めるが、なかなか立ち上がったことまではきくことができなかつたり、開所時より入所されている方については今更聞く事ができないのも事実である。		書式を作成し、日々のケアの中で取り入れていきたいと思う。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の出身地が（生まれが）他県などと遠方であったり、困難なこともある為、重要性は理解しながらも全ての利用者様に行えているわけではない。		まだまだ職員の意識が薄いように思う為、今後の課題である。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者間の人間関係を理解・把握しているつもりである。時には利用者様との間に入り、パイプ役にもなっている。また、食堂の座る位置などにもとても気を使っている。		しかしながら、利用者様間の人間関係にはどのように対応していけばよいのか戸惑うこともある
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された利用者様やご家族とも時々連絡を取り、困ったことがあれば相談に乗っている。また、退所した利用者様のご家族様から新規利用者様をご紹介していただいたこともある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いを尊重しており、常に利用者様中心に考えているが、困難な事もある。(本人本位に検討したことにより、他利用者様に影響を与えてしまうこともある為etc)</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ケアマネージャーやご家族へ情報の提供を呼びかけ、入所前にある程度の情報は把握できるよう努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の記録は(ケース記録等)職務に就く前に確認し利用者様の状態の把握をしている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当間での話し合い 計画作成担当者との話し合い Dr・Nsへの相談 ご家族・本人様への報告・相談 といった流れの中で介護計画は作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランは1回/月の見直しを行い、利用者様に何かあればケアプランの再検討・変更を適宜行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への記入・申し送り・ミーティングで情報の共有に努め、その話し合いの中で介護計画を見直したり、ケース記録を中心にモニタリング・アセスメントに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人様の状況に応じ、併設施設の特養にて入浴（機械浴）していただいたり、デイサービス終了後にはデイサービスのリハビリ室を借りて運動していただいたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	左記のような機関に協力を頼んだ事例がない。		今後、利用者様からそのような機関の利用依頼があれば検討したい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設施設の特養のケアマネジャーに職員が相談したり、利用者様が以前利用していたケアマネジャーに相談することがある。		利用者様が必要と言われれば話し合う機会を持ちたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	施設として近隣市町村主催の権利擁護について等の研修会に参加している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様ご家族様の要望に協力する意向は伝えている(また、そのような事例もある)が、当施設の協力医療機関にかかることが多い。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	担当医が認知症に詳しく、常に利用者様の事を気にかけてくれる。また、介護職員の日頃のケアについても関心を寄せてくれており、利用者様からの信頼も厚い。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当施設の特養に勤務するNSがGHの利用者様の事も気に掛けてくれている為、職員も気軽に相談することができる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関に入院した場合だけではなく、他病院に入院した場合もお見舞いに伺ったり、電話で状態を確認するなどの対応をしている。また、利用者様が入院した場合は1回以上/週の電話確認をご家族に行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設の方針として現段階ではターミナルケアは行わないこととなっている為、ご家族様にはその旨説明し理解を頂いている。		今後は職員教育を充実させて近い将来でのターミナルケアの実現を目指している。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	併設施設の特養では「ターミナルケア」の実現に取り組んでいる為、GHの職員の教育が急務であることは認識している。ただ、ターミナルケアについては安直に行うことが利用者様やご家族様にとって良いことなのかは疑問に感じてしまう。職員に十分な知識と経験・理念が備わるまでは取り組むつもりはない。		同上

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>利用者様には窮屈な思いをさせないようこれからも検討する余地は大いにある。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>美容院や床屋など利用者さんの要望があれば応えていけるようにしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の残存能力を活かしながら調理や準備を行っている。・・・献立については施設の管理栄養士がたてる献立に沿っている為、必ずしも好みに合っているかは分らないが、アンケートを実施するなどし利用者様の意見を取り入れている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコやアルコール類については諸事情から困難ではあるが、それらについても断ったことはない。カップラーメンを食べたいという利用者様の意見などは取り入れている。		利用者様より申し出があれば実現できるよう取組みたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者様個人の排泄パターンの把握に努め、それにあわせた誘導等を行っている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員から声を掛けて入浴を促すこともあるが無理強いはしていない。また、夜間に入りたいという利用者様には夕食後に入浴していただいている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食事の時間以外は自由に休息をとっていただいている。就寝時間も職員側から強制したことはない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	皿洗い・洗濯干し・洗濯物たたみ等、自然と役割ができつつある。中庭にできた鳩の巣が利用者様の楽しみの一つになりつつある。またカラオケの機材を購入したので、皆さんに楽しんでいただけるよう支援したい。		散歩など取組みたいことは沢山あるが困難となった事情もあり実現していない。“余暇”については今後の大きな課題の一つである。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持し自由に買い物をしている利用者様もいるが、所持すること・管理することが困難な利用者様には申し訳ないが、職員が管理している。職員間では利用者様が金銭を使う・管理することの重要性は理解している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なかなか一人ひとりの希望に沿うことはできていない。		戸外へ出る機会を増やすことから検討していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や外食・遠出なども回数は少ないが、外出の支援を行っている。ご家族との外出については積極的に支援している。		利用者様の生活にメリハリをつける意味でも外出とうの機会を増やしたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は公衆電話のみだが、希望時には自由に使えるよう支援している。また、手紙も希望があればその都度対応できるようにしてある。しかし昨年年末賀状を用意したが、自ら書いた利用者様は一名だった。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定してあるものの、面会者には出来る限りゆっくりと過ごして頂けるよう居室へ案内している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の意識も高く、身体拘束は行っていない。		法人全体で身体拘束については教育し、行わないよう努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様が鍵を掛ける事はあっても職員が鍵をすることは無い。日中に浴室にのみ(未使用時)鍵をかけているが、トイレと間違えてしまう利用者様がいる為であり、入浴をさせない為ではない。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食事やお茶の時間、レクへの参加をお誘いする為に声は掛けるが、必要以上に訪室することはない。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	どの物品がどのように危険かあるいはどの利用者様にとって危険なのか職員で検討し、事故を未然に防ぐ努力をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	施設全体の防火訓練や内部研修で周知徹底に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部研修や防災訓練で救急救命等の訓練を実施している。		不測の事態に備え緊急時の対応についての知識と技術を学ぶ機会を施設全体として検討したい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の住民が参加することは無いが、月に一度の防災訓練を施設として行い、避難訓練では利用者様にも参加していただいている。(日中だけでなく、夜間想定でも実施済み)		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族やご本人様には起こりうる事例をお話し、どのように対応するのかを説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1回/日のバイタルチェック(必要な方には3回/日)や3回/月の腸動音検査などを行い、それらをバイタル表に記入し、各職員はそれらを確認している。また、何か気づいた事があれば、協力医療機関に電話やFAXで確認・相談が行えるようになっている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	回診時などで、新たな内服薬や外用薬が処方されたら、DrやNsに必ず確認し、記録にのこしている。また、内服薬の一覧表を介護職員室に掲示している。内服の変更があれば必ず記録に残し確認している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給量の調節や冷たい水を飲んでいただいたり、腹部マッサージを行うなどしてから、服薬するかどうか検討するようにしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを行わせていただく利用者様もいる。基本的には起床時・就寝時に口腔ケアを手伝い、10時・15時のお茶の時間にうがいの介助を行わせていただいている。		口腔ケアについては更に取り組んで生きたい事項の一つである。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記入し状態の把握に努めている。また水分については必要な方のみ行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	施設内の感染症予防マニュアルがありそれらに準じて行動している。		マニュアルをもっと活用できるように夜勤帯の時間等に確認するようにしたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1回以上/日のアルコール消毒液で机などの消毒。まな板等は夜間にハイターで消毒。食材に関しては厨房から新鮮なものを届けてもらっている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を飾るなどし、温かみのある外観を目指している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事を部屋の飾りに取り入れたり中庭に季節感のある花を植えるなどしてできる範囲内で工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で、少人数でお茶を飲むスペースを作るなどし試行錯誤している。		足を伸ばすことができるスペースを作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入所時に必ず”馴染みの物の大切さ”をお話し し、ご家族様にはご理解・協力を得ている。		もう少しご家庭で使用していた家具等を持ってき ていただいてもよいのではないかと。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空調は介護職員室からでも操作することができ る為、室温調節を極端に行う方の居室などは職員が 気に掛けて、一日に何度か設定温度を調節する。 また2～3回/日の換気を行い、空気の入替え を行っている。窓を開けることを嫌う方の居室は 食事の時間などに職員が換気をしてストレスを感 じないようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっている。後から職員が 工夫した事はあまりないが、浴槽の手すりやグ リップを取り付けるなどできる範囲内で配慮して いる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレの張り紙や各居室に用意した大きな表札で 混乱を防ぐ努力をしている。また食堂に一週間の 予定表や本日の予定を掲示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	庭を掘り起こして畑にしたり、利用者様個人の花 壇やプランターを用意し野菜作りや花を植えるな どしている。また中庭には日よけを兼ねて朝顔や ひょうたんを植えて楽しんでいる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外出の機会が少なかったり、他の施設に比べて取り組んでいることは少ないかもしれないが、職員は常に「利用者様の為に自分たちが何ができるか？何をお手伝いすればよいのか？」と試行錯誤している。近所に喫茶店がないのなら、施設内の一角に2～3人でコーヒーを飲むスペースを作ってみたり、施設自体を社会と捉え利用者間の交流（ケアハウスの利用者との小旅行・デイサービスとのカラオケ会etc）を企画したりと職員の向上心から生まれるケアは温かみがある。このようにグループホームあま恵寿荘の最大のアピールポイントは職員の「気持ち」ではないかと思う。絵に書いたようなグループホームを目指すわけではなく、立地条件などのハード面の不利を言い訳にすることなく、目の前にいる利用者様をしっかりと見つめて日々のケアに活かそうとしている。まだまだ改善点・課題の多いホームであることは自覚しているが、現在の職員が協力すれば、利用者様やご家族様からの信頼と評価は得られると信じている。